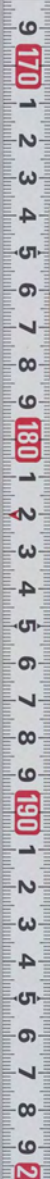


富士日記

都留文科大学附属図書館所蔵





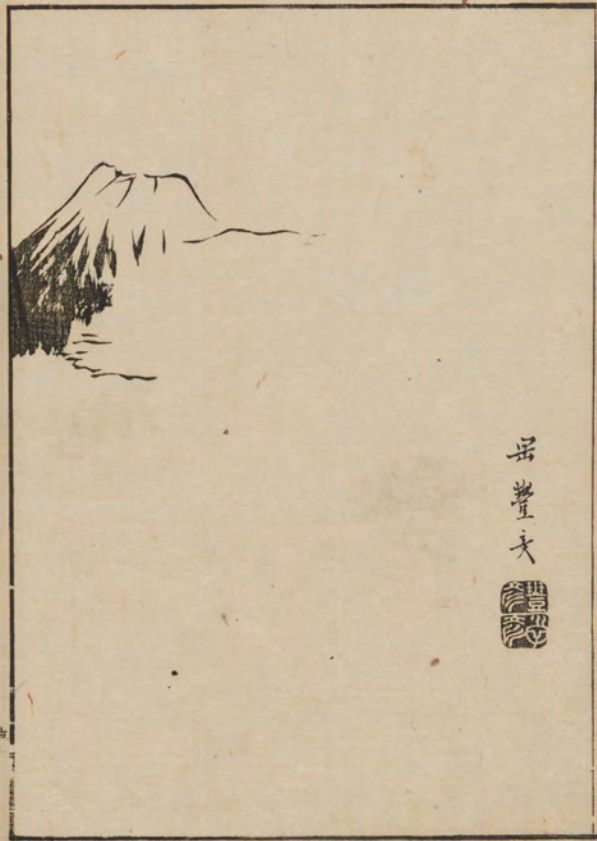
臨春齋藏

かねては梅乃なるまよがむらの世に
 せんむしてあふとんじてたふむらひあそ
 ぶ〜ねりしむらひさう事應縣をよとせ
 んあふむらむら〜城壁かのよよ乃
 一〇〇〇〜日記たふむらむらむら〜人整
 事たふむらむらむら〜むらむらむら〜
 今あむらむらむらむらむらむらむら〜
 んむらむらむらむらむらむらむら〜

いかにしてゐるはつてあるはつて日か
をいかにしてゐるはつてあるはつて日か
いかにしてゐるはつてあるはつて日か
城戸子楯うほものさたはつて日か
あかお物いかにしてゐるはつて日か
いかにしてゐるはつてあるはつて日か
城戸子楯うほものさたはつて日か
あかお物いかにしてゐるはつて日か
いかにしてゐるはつてあるはつて日か

雷長よあつてあるはつて日か
あかお物いかにしてゐるはつて日か
いかにしてゐるはつてあるはつて日か
城戸子楯うほものさたはつて日か
あかお物いかにしてゐるはつて日か
いかにしてゐるはつてあるはつて日か

文化十一年九月 三宅公輔識



岳堂文



永和九年二月十九日
 下ノ一ノ時
 始ノ

書

今ヨリ亦時ノ
 今ヨリ亦時ノ
 今ヨリ亦時ノ
 今ヨリ亦時ノ

東路西ノ付還
 見ノ眼可毛似
 受難ニテ我
 苟

浅間社在甲斐国群山市
 吉田村

一志ニテ三月十八日
 甲斐国群山市
 吉田村
 浅間社
 在
 甲斐国群山市
 吉田村
 浅間社
 在

縣主の甲斐權守に任るは
大明六年十二月十九日なり

頼業私記云故信西入道
之揚名介正權之外介也
不預公麻

おのれは... 肥後國の... 権守... 揚名介... 正權... 外介... 不預公麻

し... 信... 一

廣... 一

本... 一

本... 一

本... 一

古事紀云次於投兼御帶
所成神名道之氏乳齒神

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page or a separate entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, possibly a section header or a specific entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list.

倭名鈔之松明今様松明
者今之續松乎

本村の古くはふたつありて一は
山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

木花岡耶麻命 大山津見神之
子
五代実録 元孝天皇 仁和元年

国三月廿七日 按 甲斐国止六位
下 藤武神 建田神 並 從立
位下
是 球院 良忍 親王 正親町
院 第四皇子

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

一 山ノ下ニありて一は山ノ上ニあり

Handwritten text in a cursive script, likely representing a list or a series of entries. The text is written in a fluid, connected style.

万葉集
下
Handwritten text in a cursive script, likely a title or a reference.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or series of entries from the previous page. The text is written in a fluid, connected style.

富士山絶頂圖



原在明寫



記
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

傳名抄云本草云石楠草傳  
名止比良乃木俗云佐文茶  
魚味  
マサの 或人云其 庭木欵

十七、町ゆかり、小法師のゆかり、わんぱく、

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

強 鉞

Handwritten musical notation on the right page, consisting of several lines of rhythmic patterns and notes.

破 子

Handwritten musical notation on the left page, continuing from the right page with various rhythmic and melodic lines.

古事記云所殺是土神
於左手所成神名志藝山
津見神次於右手所成神
名羽山津見神

今昔の事は...
...
...
...
...

その事

...
...
...

...
...

...
...
...

...
...
...

田の事

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

清和天皇貞観六年六月十七日甲斐国言富士大山

川口延喜式よるんて
八代段のうを此の初ま居
ヤウニヤ

日本紀畧も兼平七年十一月
某日甲斐国言駿河国富士

山神火埋水治

萬葉集高橋良麻呂歌不
盡山長歌
石見山と云ふ山はとも枝
石見山長歌

わろしつとらつちま
んにふたむくまはら
山のぼるふかたも
此うみのまをさつた
さつちゆりゆりゆり
一葉へいへいと地は
かたいていへいと地は
湖なるにふくみといふ
も海なるにふくみ
よとてたてしつちま

忽有暴火烧碎山巔草木焦熟土燥石流石埋
代郡本栖并西水海

いやくはけりけりけり
つちまにふくまに
ふくまにふくまに
ふくまにふくまに
ふくまにふくまに



目
西水海

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

廿九日

〆中 〆 〆 〆 去 〆 下 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆

源武重才次
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆

〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆

〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆
 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆 〆

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, starting with a large initial character.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

Handwritten text in cursive script, continuing the previous line.

大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、
大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、
大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、

大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、
大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、
大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、

大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、
大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、
大田の申すは、今道へ入るは、左邊
の道に、深邊海邊に、なす
るは、

ふんしんていしんていしんてい
ふんしんていしんていしんてい

都民春富士山記云有犬
自暖下遂成大河

塩山築産抄抄云いづこ
かきしんていしんていしんてい

志原のいしんていしんていしんてい
志原のいしんていしんていしんてい

地ゆき井詰よりくもりし
ふんしんていしんていしんてい

塩井者在于陽州及四川諸郡
云く東坡志林云西川鹽生
於井永康郡鹽生於崖岸

古今集 後人まへ
まへまへまへまへまへまへ
まへまへまへまへまへまへ

五代実録貞觀元年十二月九日
以甲斐國大井保神列土官社
同七年授正五位下
等刀和名抄に之中

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

かきしんていしんていしんてい
かきしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

とよしんていしんていしんてい
とよしんていしんていしんてい

惟馬出
Wohltemperirter
Sohn
des Fürstenthums
Sachsen
Weimar

この人、
Sachsen 國の王子
にして、

其の才氣、
異常に優れ、

其の學問、
尤も精進、

其の文章、
尤も雄辯、

其の人品、
尤も高潔、

其の志氣、
尤も剛毅、

其の度量、
尤も寛大、

其の氣概、
尤も凛々、

其の風采、
尤も堂堂、

玉緒神社祭神玉屋命式内
也今就く玉室と云

此の人は、
其の才氣、
異常に優れ、
其の學問、
尤も精進、

其の文章、
尤も雄辯、
其の人品、
尤も高潔、

其の志氣、
尤も剛毅、
其の度量、
尤も寛大、

其の氣概、
尤も凛々、
其の風采、
尤も堂堂、

其の才氣、
異常に優れ、
其の學問、
尤も精進、

其の文章、
尤も雄辯、
其の人品、
尤も高潔、

其の志氣、
尤も剛毅、
其の度量、
尤も寛大、

其の氣概、
尤も凛々、
其の風采、
尤も堂堂、

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script.

الفصل

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page with approximately 12 lines of dense cursive script.

Handwritten notes in Chinese characters, including the characters 木皮 (wood skin) and 玉屑 (jade chips).

關市令云凡關門日五開
日入關と云々

淮南子覽實訓云魯陽公
與韓相難戰解日暮投交
而搗之日又二會
韓非子內儲篇云魯公與
夏戰日欲落以劍指日
遂不落
史記孟嘗君傳云

關市令云凡關門日五開
日入關と云々

關市令云凡關門日五開
日入關と云々

Handwritten text in a cursive script, likely a personal note or a short letter, written on the right page of the manuscript.

日記
如
記
日

田
日
田

Handwritten text in a cursive script, likely a personal note or a short letter, written on the left page of the manuscript.

書
博
士
賀
茂
保
考

Handwritten text in a cursive script, likely a personal note or a short letter, written on the left page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a document or a personal note. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

菅公手后

ハ葉青蓮之峰一白智上之挿
九乞下之跨之州志人修未嘗
之親而皆去其為富嶽也
賀茂事鷹縣主之於國形也
殆之類為人維末嘗見而之
皆不知其為名望也縣主

弱冠遊于江戶，年十九，年以
善和歌，有名于世。至寬政五年，
予訪多田禪沙於天龍寺，
壽寧精舍坐之。一客從，師
謂予曰：「人心和氣，遊于江戶，
須日還京。予雖未詳姓名，而
心方為縣主也。改而向之，果
然。尔後，乃立驩情，恒且熟于
今二十餘年，猶一日也。屬去
知主應書肆之清刻，其所
嘗著，富士日記，乃使予跋其
末。予以不交祥，不可閱一閱
之，其文辭，富贍秀，按精
淡，乃印。待予喋，予唯此。

書之行也其名望之彌高謂
其書連白雲爭光之矣不
可哉謹跋

文保十一年甲戌孟夏瀨尾文拜撰

研齋書



文政六年癸未仲夏發行

京都堀川通高辻上

梶川七郎兵衛

同錦小路通室町西

惠比須屋市右衛門

大坂心齋橋筋博勞町南

河内屋茂兵衛

書林



書之行也其名望之彌高謂
其書連白雲年光之矣不
可哉謹跋

文政十一年甲戌孟夏瀨尾文拜撰

研齋書



文政六年癸未仲夏發行

京都堀川通高辻上

同錦

大坂心齋

書林

大坂心齋
同錦
尾
大坂心齋
同錦
尾
大坂心齋
同錦
尾

